

# 親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による  
当山スローガンです  
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）  
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。  
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。



No.61

令和7年6月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉  
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1  
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427  
ホームページ https://www.myojoyuji.or.jp



## 「酒井抱一のパトロン・永岡成美」(下)

同志社大学 京都と茶文化研究センター 宮武 慶之

### 3 抱一との交流

永岡では抱一に多くの作画を依頼します。特に「節句図」や、富士図が確認できました。ではこれらの交流は単に作画の交流に留まったのでしょうか。大きな視点に立てば、抱一との付き合いは、若い成美に何かを植え付けたのか、重大な問題となります。一番は優れたモノ（人生観も含め）の見方。優れたモノの見方とは優れた作品を集める心得にもなる。優れた芸術家は、優れた批評家でもあり、まさに抱一にこそ当てはまる。そこで新たな永岡家旧蔵品として尾形光琳筆「秋好中宮図」に着目しました。本作品には抱一による成美宛の所感が付属し、同家のコレクションに関係したことが確認できます。また伝源実朝筆「日課観音図」（福岡市美術館蔵）はおそらく抱一没後に、永岡家が収集したと考えられ、このような幅広いコレクションにも、抱一と成美の交流が確認できます。特に永岡家と冬木屋の関係が立地という点で確認できたことに加え、実は江戸時代後期の冬木屋は多くの美術品を所持しており、抱一をはじめとする江戸の好事家も、実際に冬木屋で多くの作品を拝見し記録していました。永岡家との関係した人物のうち抱一や池田孤邨の作品にも注目し、当時の冬木屋と永岡家の関係をより詳しく紹介します。

### 4 むすび

成美の目指した世界を考える時、名である成美は、本人を語る重要な言葉と目されます。墓石戒名や、確実な永岡家旧蔵品である五節句図にも、実は「成美」の押印があり、やはり重要な言葉であると考えられます。単純な読みでは「成レ美＝美に成る」となり、その意味するところは理想とする世界の創造と理解することができます。このように考えると抱一の存在は、身近で成美に関係した、偉大な共鳴者であり師（遊と実）としての位置付けが可能となります。

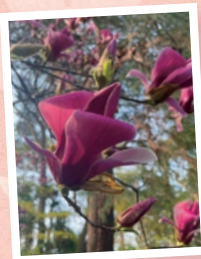
特に本著作では永岡成美の特質を明確にするため、人物比較を行い、浮き彫りにしています。まず抱一のパトロンという点では大澤永之が著名であり、次に商家との関係では吉村親阿との比較を行い、特質を明確にしております。時と人を得てこそなした永岡家のコレクション。是非この機会にご紹介を賜れましたら誠に幸いです（表紙：酒井包一筆、デザイン：奥村頼正氏）。



＊本書をご希望の方は、当山受付にお問合せ下さい。



本年は終戦80年。当山にある釜六（太田近江大掾：おたおうみだいじょう）制作の江戸期梵鐘（ぼんしょう）は、戦時搬出を免れた。



モクレン



ヤマブキ



ソメイヨシノ



コブシ



ホトケノザ



ツバキ



スイセン



ミモザ

境内・陽春

# 百花繚乱



草紙洗梅（ソウシアライツバキ）



アセビ



当山上人の

## 宗務院 DIARY

- 3/5 興隆学林卒業式・学務協
- 3/11 東日本大震災慰霊法要・布教機関連絡会議
- 3/14 法華宗教学発表大会 於 京都キャンパスプラザ
- 3/24 法華宗青年伝道隊新隊員錬成閉講式 於 京都・本能寺
- 3/28 内局会議・法華宗青年伝道隊新隊員錬成閉講式 同上
- 4/10・5/9・5/27 内局会議
- 4/11 千鳥ヶ淵宗門戦没者慰霊法要⑦・奉讃会総務会
- 4/21 法華宗顧問会 於 尼崎・都ホテル
- 4/22 興隆学林後援会・諸会議 於 尼崎都ホテル
- 5/19～22日 第80次定期宗会・責任役員会議・内局会議



⑦

- 5月27日・28日 全国宗務所宗会・所長会
- 5月26日 東京都宗教連盟理事会
- 5月14日 東京都仏教連合会監査会
- 5月14日 東京都仏教連合会監査会
- 5月2日 櫻井律子氏出席 当任上人鑑賞
- 5月2日 書道「日本書鏡院選抜展」
- 4月19日・20日 大坂妙道寺高橋顯昭上人分骨埋葬法要
- 4月15日 法要④ 当山日照上人・慈恵院・智覚院祥月忌
- 4月14日 合わせ会 東京都仏教連合会・全日本仏教会打ち合わせ
- 4月9日 於 浅草・涼源寺 東京都仏教連合会理事會
- 4月5日 稚児行列妙善寺発・法要・存明寺③
- 4月4日 鳥山仏教会花祭り（5年ぶり）
- 4月4日 東京都仏教連合会事務局会議
- 4月1日 於 駒込・江岸寺 当任久美夫人同親七回忌法要
- 3月27日 増上寺貫首小澤憲珠台下推戴御挨拶
- 3月23日 德島妙典寺平島盛龍上人正子母堂（3月21日）逝去）弔問
- 3月20日 於 両国・東京慰霊堂 春季彼岸会 中日法要・動物廟法要
- 3月18日 第23回納骨堂建設委員会
- 3月15日 於 両国・東京慰霊堂
- 3月12日 東京都仏教連合会常務理事會
- 3月10日 春季例大祭・両国東京慰霊堂②
- 3月7日 於 浅草・東本願寺 浅草仏教会東京大空襲慰霊法要
- 3月3日 猿江別院納骨堂地鎮祭①
- 3月2日 京都桐蔭席河合洋氏懸釜
- 2月28日 京都福知山・光延寺歴代上人参拝
- 2月26日 大本山護国寺貫首小林大康宛下本葬儀
- 2月25日 遠州流天神茶会
- 2月20日 全日本仏教会理事會 於 芝・明照会館

## 寺日記

てらにつき

## 法要のご案内

(別紙参照)

7月16日(水)  
孟蘭盆会施餓鬼法要 動物諸霊法要 正午  
孟蘭盆会法要 午後2時  
新孟蘭盆会法要(新盆)

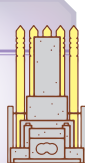
9月23日(火・祭日)  
秋期彼岸会中日法要 初座:午前11時 第二座:午後2時  
動物諸霊法要:正午12時

### 猿江別院御写経会

6月5日(木)  
8月7日(木)  
10月2日(木)  
12月4日(木) 参加費:500円  
※毎回、木曜日13時～19時

### 新規墓所ご案内

3尺×4尺=6基  
3尺×3尺=6基  
2尺×2尺=8基  
詳細は当山までお問い合わせください。



### 「烏山今昔散歩」案内

クイズ形式で烏山寺町の歴史・文化財を紹介。学童の最適な読み物です。お問合せは当山受付まで。

発行: 令和6年11月  
発行所: 世田谷区教育委員会事務局  
生涯学習課文化財係



## 正隆会

[SHORYU-kai]

午後2時開催

月例講  
ご案内

- 6月14日(土) 勉強会「法華経への誘い」拝読12
- 7月5日(土) 写経会
- 8月 休講
- 9月13日(土) 勉強会「法華経への誘い」拝読13
- 10月11日(土) 勉強会「法華経への誘い」拝読14
- 11月8日(土) 写経会
- 12月13日(土) 三千遍唱題会・勉強会「法華経への誘い」拝読15

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

予告

### 竹灯籠能 × 一之輔落語

令和7年10月26日(日)

於 妙壽寺本堂

開演 13:30 (開場 13:00)

演目「百万」

落 語 ▶ 春風亭一之輔師匠

竹灯籠能 ▶ 浅見慈一師

予告

### 宗祖日蓮大聖人750遠忌記念 法華宗主催 静岡・身延団参のご案内

宗祖への報恩感謝の念を高めるべく、法華宗主催、静岡・身延団参を実施します。今回は大本山光長寺様はじめ、宗祖靈蹟寺院、宗祖が晩年過ごされました身延山への団参を計画しております。下記の募集要項により、参加者を募集いたします。

旅行実施日: 令和7年9月17日(水)～18日(木) 1泊2日  
集合: 17日午前10時15分 JR三島駅 北口ロータリー前 (集合場所までの交通費は各自負担)

解散: 18日午後4時30分 JR静岡駅  
募集人員: 40名 (定員になり次第締め切り)  
参加費用: お一人様 50,000円 (宿泊・移動費・御灯明料等含む)  
問い合わせ: 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-19-1  
法華宗宗務院 電話 03-5614-3055 FAX03-5614-3056

## 俳句事始

如月 弥生 卯月

ジャカルタの友の車に洗車雨  
雨期晴間ボルブドールの古仏観る  
夜陰にてカエル足元春浅し  
病きの友垣の庭雪中花  
水仙の黄色き口は何語る  
路の蒼草速汗に刻み入れ  
慰霊堂三月十日人集ふ  
鈴なりに実るが如く馬酔木かな  
春雨のそぼ降る下に襖川  
見え隠れ囁り頼る枝の先

鴉鵂



# 葬送の在り方、今昔

三吉廣明上人 当住

園田顕教師 (三吉廣明上人徒弟)

中島正幸氏 (有限会社セレモ中正代表)

令和7年4月21日  
於 妙壽寺月礼講・正隆会にて

## 時代とともに変わりゆく葬送

**住職** 本日は4月の正隆会ということで、当山先々代の日照上人の祥月命日忌でもございまして、ただいま、お経を一緒に上げさせていただきました。今日のお話は、現在、お葬儀の形がこの何年かで大変激変しています。そこで長らく当山の職員お弟子さんとしてお勤めしている園田顕教師と妙壽寺のお葬儀執行に関わっていただいているセレモ中正の中島正幸さんによる鼎談「葬送の在り方、今昔」についてお話しします。また、正隆会に本日参加された皆さまにも「同席いただきました。昨日、宗門の千鳥ヶ淵慰霊法要がございました。総長台下の金井総長は法話で、3年前の総長就任後に、ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ戦争が起きたか考えると、親を大事にしないからではないかと。つまり親御さんの葬儀その他のことを簡略化して、親に対する恩義、ありがたみを忘れ去っている。そのことの責任の一端は、やはり我々宗教に携わる者にも大きな責任があるのではないかと」という話をされました。私は、それはまさにそうだと思いました。親を思う気持ちというのは、やはり葬儀の基本ではないかと思うのです。本日のテーマの葬儀についてですが、私が住職に就いた45年前に遡って、妙壽寺のお檀家さんはやはり元の深川猿江の江東・墨田に多いですが、葬儀は自宅で行われ、我々僧侶が赴き、町会が総出で、婦人会が煮炊きをされていたようです。

中島さんは、最初は別の葬儀社の部長をされ、その後当山に関わるようになりましたが、葬儀に関わって何年になりますか。  
**中島** 32年です。  
**住職** そうですか。園田師はお坊さんになられて何年ですか。  
**園田** 平成4年ですから、33年です。

**住職** では、2人はほぼ同じ年数で関わっているということになりますね。そういう中で、町会長が葬儀委員長という形で、家族があって、家族とその周りを囲む方たちが一生懸命お葬儀をしていったというのが素晴らしい。私はそういう中で住職を40数年前に勤めました。

中島さん、その30年前に葬儀に関わられたときは、今思つてこんな感じでしたでしょうか。  
**中島** 私が葬儀業界に入ったのがそのときで、その前は違う業界の会社に勤めていました。私自身は下町で育っていますが、荻窪方面の葬儀社でし



三吉廣明上人



園田顕教師



中島正幸氏

たが、その頃には町会は形だけでした。婦人部もなく、実際に活動していなくて。我々深川のほうはその頃はまだ町会が機能していて、葬儀といえば町会で会計、受付、婦人部は接待といったお茶や飲物を出したりしていたのが現状でした。

**住職** その頃は既に山手の町会は、機能していないということですね。

**中島** 形だけで、実動はなかったですね。だからびつくりしました。葬儀をどうやってやるのといったら、その頃からすべて葬儀社さんが行なう。いないところはどうしたかという、お金を払ってでもいかに人を雇ってくださいたいというような葬儀でした。下町はまだまだ町会が頼りでした。ね。

**住職** 園田師にお伺いしたときは、やはりお寺の行事に関わっていたとしたときは、おはぎの数を200にするか250にするかという話でしたが、昔は多いときは、特にお盆は多くて700、800という記憶があります。

**園田** ありますね。最初はお坊さんの仕事というより、当時は、所化である学生がいたので、私はどちらかという裏方の仕事が多くて、一番多いときはお盆で、3升の釜で9回ご飯を炊いたことがあります。全部自分たちで米を洗って、炊いてお弁当はみんな、自分当箱に詰めていましたね。当時は、それを2回戦、3回戦というような時代でした。

**住職** その頃はお寺の出入りの久我山にある鰻割烹の主人が、徹夜でおかずを作っていました。それを800、900持つてきて、并当箱に詰めるのは婦人会とお手伝いの方たちで、園田師や亡くなった安田(顕実)師がお米を炊いて詰めていました。それが、木製のお弁当箱で、1回使ったのをまた洗って使う、そういう時代でした。

恐らく日照上人の時代は、婦人会は前の日からこのお寺に泊まりがけで煮炊きして、お風呂も入って、翌日に備えたという時代が多分長くあったと思います。

昭和と今とでは、やはり家族のありようが大きく変わったということです。特に平成も後半になってくると、葬儀がない方向にどんどん進んでいます。私、そこで思い出すのは、私の恩師は、人が亡くなるという現実には2つあると。1つは、肉体としてのお体をお骨にしていくなという部分と、その人をどのようにお送りするかという尊厳の部分。それで「三吉君、その尊厳の部分が今抜け落ちかけている時代だ」と、それは宗教者の役目もそこにあるのではないかとおっしゃっていました。

## 仏教としての甲乙

**住職** 昭和から平成の前半ぐらいは、今考えるといい時代だったと思います。私は本当に園田師をありがたいと思っているのは、じかに檀家さんのところに出口くことをいとわず、お檀家さんの話を聞いてくれるということです。ただ、そのじかに話を聞くということも、昭和から平成後半に変わりましたでしょう。

**園田** そうですね。もともと住職からお坊さんになれと言われて話をしたときに、私、本当に感

動したのが、キリスト教で神父・牧師さんは、亡くなるときに病院に行つて最後の何ていうのでしょうか…。

**住職** 洗礼ではないですけど、最後の何かお祈りをね。

**園田** お祈りをするし、最後に亡くなる人も、悪いことをしていたら懺悔して向こうに行くというのが病院で当たり前にやられていますと。「住職はそういう坊さんになりたいのだと。今の日本は病院に坊さんがこの格好で行くと、絶対来るなという感じがやないですか、縁起が良くないみたいだね。そうではなくて、「住職は、それを本当はやりたいんだ」という話を聞いたのがとても印象的で、そういう坊さんでもいいなと思ったのがあります。私は会社を辞めてから7年目ですが、辞めてからよく枕経とかに行くようになりました。亡くなってお家に帰られたり、葬儀社さんの安置所に行くので、本当に皆さんが、心が動揺されているときに伺い、お話を伺つて住職にお戒名をつけてもらうのですが、一番悲しい場面によく立ち会っています。私も家内を見送つていますので、そういうときの気持ちを考えて、やはり自分ができることしかできないので、寄り添ってあげるといふよりは、私自身が寄り添わせていただいているというような気持ちでいつも接しています。

**住職** でも、そうなる、妙壽寺のお檀家さんでもたくさんいらっしゃるわけですが、諸事情によつて火葬場だけの読経ということになるのはどうしてか、ということに思っています。

少し話を長いタームで考えると、私は今、東京都仏教連合会に関わっており、今度の勉強会に正隆会の課外活動で伺った千葉県佐倉市の歴史民俗博物館の教授を招請します。その方は葬送儀礼を研究していて、昔からの葬送儀礼がどのように変わってきて、現在どう変わったかというお話をされます。私もそれはぜひ伺いたいなと思つています。

葬送ということ、今、園田師からある種の志を述べてもいましたが、中島さんとして、状況はいろいろ変わつても、「自分の中の気持ちというのには、どういつことなのでしょうか。

**中島** 私は三十数年間、今でも変わらない気持ちというのは、一番の基本はやはり亡くなった方というのが一つあって、その次に近くにいる方がどんなお気持ちなのかということ。私は葬儀社なので、これからどのような葬儀をやりたいか、そのことをまず聞くことです。ですから「じちはこのようにやつています」ではなくて、「こんなふうにお考えですか」というところから、喪主さんまたは喪主さんに近い方に聞くのが、今も変わらないなと自分では思っています。

## コロナ禍を乗り越え、その後の葬送

**住職** 二十数年前に阪神・淡路大震災、そして十数年前に東日本大震災が起これ、地球の裏側では戦争が始まり、そういう中で、今から5年前に起きたコロナ禍と、災難が続きました。そのような危機的状況の中で、葬儀の在り方、やり方が変わってきて、追い打ちよりも、何かここに至つたというような感じがします。人との接触自体が禁じられるような状態の中で、ただ、妙壽寺の弟子職員さんと私が話していたことは、これは決して批判とかではなく、お寺さんによつては、火葬場に行かないとか、「遺骨と共にお寺に来てください」というお寺さんもあると聞いていましたので、それは絶対にしないようにしています。

もう一つは、コロナ禍の前に遡りますけど、今の総長さんが総務部長さんだったときに、お通夜をやらなくなつても必ず枕経には行くと。それを

お檀家さんには義務づけてもらうようにお寺としては言っているという話を伺いました。それは神戸でした、本当かどうかは別にして、通夜はやらないけど枕経に行くというので、2つ合わせて「通夜枕」というのだそうですね。何か艶っぽい名前ですが、葬儀をやるというところにしたと。それを聞いたときに「これだ」と私は思ったので、妙壽寺でもそれをぜひ行つて、その方がどういう人だったかということも聞かないとお戒名もつかないということもあるわけですから、そのようにしました。中島さん、やはりコロナ禍の時期は大変でしたね。「同業も含めてね。それについてどうぞ一言お願いします」。

**中島** 「住職がおっしゃったように、コロナ禍が終わつたと言われていますが、それでも割合的にいうと、例えば茶毘だけというのが結構希望があります。あとは1日葬といつて、お通夜をやらないうで告別式だけをやる、あとはお通夜、告別式をやるという、今の葬儀業界はこの3つのうちのどれかを希望される方が多いです。昔はもちろんお通夜、告別式をやつたというのが大体8割。コロナ禍以降からは、茶毘だけというのは1割から2割、1日葬が6割ほどで、通夜と告別式をやりたいが2割から3割ぐらいというのが現状です。ですから、あくまで「私はこういつようにやりたい」と言われると、まず菩提寺さんがあるかどうかを聞いて、「菩提寺さんとご相談をしてください」というのが私の全ての返事ですね、どんなときでも。そこでお墓がないと言われれば、それはもう言いなりになります。お経も何もなし、茶毘だけしてお遺骨をお墓へ持つていくというのですが、お寺さんを持てているということ、やはりお寺さんに相談して返事をもらうというのが今の私の葬儀社としての一つの答えにはしています。そこから先はもう答えを待つているしかないというのが現状です。

**住職** 弟子職員ともみんなで話して、ともかくコロナ禍であっても、妙壽寺は、お檀家さんに対してコロナ禍以前と変わらないようにやつていこうという話をしていましたね。

**園田** そうですね。今、その中でまた、初七日も式に組み込んでくださいという。初七日は式場に冥り遺骨供養と一緒に大体火葬場に行つて戻つてやるというのが昔は一般的でした。千葉県は昔からそういうしきたりでしたね、とにかく式の中で初七日をやつてくださというので。そうすると、両方やりますとほぼ1時間。私は「1時間取ります」と言います。そうすると、「ご出棺のときのお花入れの時間がとても短くなるんですよ。ですから、それだつたらスタートを15分早めます。そうじゃないと本当に慌だし、お花入れが終わつて最後のお別れがゆっくりできないのでというのが、この頃、東京でも一般的です。初七日込みでお願いします」。

結局、「コストのことを言われると、私たちが断れない。帰つてきて会館を使うとコストがかかりますよと言われると、コストを安くしたいという方にはやはり「そつです」なつてしましますから。  
**今木久子** 普通はお骨になって帰つてきて…。  
**園田** 帰つて初七日ですね。

**今木久子** それで、初七日の法要ですね。  
**園田** はい。それが今、お葬式を1回締めます。それで、「これから引き続き初七日をやつて、それで出棺になります。そうすると、火葬場へ行つて解散にできるんです。

**雲下翠** ああ、なるほど。  
**園田** 火葬場へ行つて、また戻つて初七日だと…。  
**雲下翠** でも、喪主はやはりお骨を持つて戻つてくるんですよ。違うのですか。

**園田** そついつことはこの頃はないですね。でも、



正隆会参加者の方々と共に

お寺でやれば間違いなそれです。火葬場へ行つても、お寺に戻つて初七日ですけど、一般的な会場では「次のお通夜の準備があります」と言われ、会場がない。というのが、今は結構、一般的です。

**中島** はい。結局ですね、式場は時間貸しです。そうすると、戻つてから初七日をやつて食事となると、式場を延長しなくてははいけない。それで延長できるところはまだお金で済むところもありますが、できないところもある。「もう駄目です。もう延長はできません」といふところもあるのですが、そこはお金の問題と、可能不可能が出てくるので、そのことと我々葬儀社は「お寺さんと相談してください」と言つか、私の感覚ですと9対1ぐらいで、初七日は組み込みですね。

**住職** 9対1まではいかないかと思っています。  
**園田** 8対2ぐらいは。  
**中島** 式場だとそうなりますね。

**住職** ただ、もう根つこのところは、初めてお骨に埋められた仏像に対して「還骨」と言います。「骨に還る」と書きますが、「還」は「戻る」ですね。還骨のお経という言い方があり、お骨になって最初に骨を上げさせていたかと、戻つて。それと初七日を併せてやるというのがもともとの決まりです。それで、大昔は、初七日は初七日でちゃんとやるということですから、そのところもだんだん簡略化、省略化、併せということになってきている部分があるので、何から何まで丁寧にやるというのがいとは私も今の時代ですから思わないですが、やはり大事なお弔いのそういう節目、折り返しをしないというのは、少し残念だなと思ひますね。一体、親にしたって、大事な人にしたって、どれぐらい人として人生の中でその人の深い関わりがあったかということを考えて、やはり丁寧にしていくというのが非常に大事なことになるのではないかなと思います。

**園田** 最後の晴れ舞台ですからね。  
**住職** そうですね。もつと言つたら生きたあかしおと思ひます、葬儀というのは、最後のあかしのお見送りであり、告別式というのは、こちら側の生きている人間の側の式典が告別という言い方で、すよ。葬儀というのはあくまで亡くなった方を、ちゃんとお戒名をつけて、仏様の世界にみんなでお送りしようというのが葬儀ですと私共の法華宗では教えています。そこがすごく大事なのではないかと。

## 妙壽寺の葬送の在り方

**住職** 我々の正隆会では法華経の勉強をしています。そのことと葬儀がどうつながるかということ

ともあります。法華経の最終的なことは、やはり人の役に立つとか人のために尽くすということが非常に尊いこととあるので、では、亡くなった方から我々がどういつぶらに、いろいろなものを亡くなった方から受け取れたか、あるいは世話してもらつたか、そういうことを思うのも、この葬儀という機会しかない、ある意味ではね。最後のよりどころだと思ふので、やはり大切に考え、さしあげたいなと思つてはいいます。

近頃、やはりお寺での葬儀が増えています。これはちょっとネガティブな話だと、前はこういう方も多かったのですが、周りに知られたくないからお寺でやるというのもありました。最近「本堂にお寺の本堂でできるんですか」という方も結構いらっしゃる。今、お寺のほうでは、そついつ相談を受けたときは、お寺は日程さえ合えばお受けするし、ありがたいことだと思つています。

**園田** 私も、自分の妻もお寺で見送りましたが、妻の両親もここに眠っていますので、やはりご先祖様の前で見送れるというのはまず良かったかなというのと、あと中島さんに任せておけば飾りも全部やつていただけるので、本当によかったかなと思ひました。やはり「住職がおつてよかったな」と、「本堂に本堂でやつていいんですか」という方のほうが多いですね。ぜひ、ご先祖様の前でお見送りできるのですから」という話をよくさせていただいています。この間は、日曜日に行きたいという方がおられて、何とかやりくりして、日曜日に午後にお葬儀ができました。

**住職** それから、今から8年ほど前に猿江別院の落成をされたんですが、江戸時代から3000年続いたある総代さんの家が比較的その近くにあつて、「自分のご意思として自分の葬儀は猿江別院でやりたい」ということで、猿江別院始まつて以来の盛大な葬儀をさせていただきました。そのときも中島さんいろいろなお願いしました。

近頃では、猿江別院で葬儀があり、「法事もあります。また、中島さんのお知り合いの方などにもお貸出しをしています。もともとのこのお寺が102年前の開東大震災まであった場所に稲生家の「寄進で再建させていただいて、大変有用に使わせていただいています。中島さん、いかがですか、猿江別院の評判は。

**中島** 皆さん、よかったということでお話をされています。  
**住職** 総代婦人会の中でも、地理的なことも含め、やはり猿江別院でお葬儀をやりたいという方もちらほらいらっしゃるよ。

**中島** はい、何人か聞いております。駅からも近く、  
**住職** 今、許認可の問題があつて少し時間がかかりますが、隣接地に位牌堂を中心にした納骨施設の工事に入りました。先般、3月3日には地鎮祭も行ないました。いずれ皆さんに見学していただきたいと思つております。

今日は葬儀についてのお話でした。そしてまた7月にはお盆を迎え、お寺にも新盆の方がたくさんお見えいただいて、悲しみの中で盂蘭盆会を一緒に皆さんとお勤めしたいと思ひます。  
当山もあと6年で創建400年になります。つまり、お檀家さんのそついつお弔いを400年続けてきたお寺ということになりますので、これからもまた皆さんにお護りいただきながら進めたいと思います。

今日は中島さん、お忙しいところ、正隆会に兼ねていろいろお話を伺わせていただいて、ありがとうございました。園田師も、今後ともさらによろしくお願ひいたします。

**園田・中島** ありがとございしました。(一)  
**住職** 皆さんありがとございしました。(一)